

2021年12月4日(土)

GIチャンピオンシップ 第1回 初日

記録ログ(文章)

「この地図にはな、海賊王の遺した秘宝が記されてんだ。」

噂を聞きつけた我々に胡散臭い男は夢見るように語る。眉唾……と思うも、地図を手にすると確かめられずにいられない。そんな性とも言える衝動に突き動かされ、宝探しに赴く我々であった。

宝を求め無人島に降り立つ我々の前に立ちふさがるのは数多の商売敵(ハンター)たち。

普通のハンターであれば強敵と競い誰よりも早く宝を見つけることは並大抵のことではない。しかし、我々であれば問題ない。これまで数多のトレジャークエストをこなし、1年かけて最もハンターズポイントを獲得してきた、いわば百戦練磨の精鋭だ。この勝負に負ける訳がない。

…彼らの目と、舞台となる島を見て、そんな自惚れは早くも崩れ去った。

「やはり、今までのような誰でもクリアできる子供騙しのお遊びとは全然違う…。とんでもないところに来てしまったようだ。」

松山の港から船で40分あまり。

「ありが島」とも呼ばれる宝島がその名前と裏腹に猛威を振るうのに、時間はかからなかった。

…これは、下手したら死ぬぞ。

山頂を目指した我々が突きつけられた現実

宝をいち早く探すには分担してひとりで行動することは必須だ。

だが、一歩足を踏み外すとそこは断崖絶壁の死の岩場。

落ちても誰も助けてくれない。

「不安からくる恐怖心が一番危ない。常に音声を繋げて状況を逐一報告しながら歩くこと。我々は一人じゃない！」

これほどまでに仲間の存在を心強く思ったことはない。以下、本日における各々の活躍をこ

ここに記す。

(いんこ)

今日は朝から不連続きだった。とにかく物を失くすのだ。

空港の保安検査場でモバイルバッテリーを預けたらそのまま受け取り忘れてしまった。ポケットに入れたと思っていた GPS ログ記録装置が見つからない。手袋を片方失うなんて当然だ。

…いつもならこんなミスはしないのだが、やはり G1、1000 万円の賞金を目の前にしてビビっているのか。

こんなことでは自分が足を引っ張って、チームのみんなにも迷惑をかけてしまう。

「本当にすみません。朝からミスが続いてしまい。こんなことでは宝物なんて見つけれませんよね…。」

テントの中で平身低頭謝ったそのときである。

「いんこさん、その程度のこと一体何の問題があるのですか？」

その時である。カバンの底にモバイルバッテリーと GPS、更に手袋を発見したのは。

1 日探し回っても見つからなかったのに。

どうやら真の宝はとても身近にあったようだ。

(如月一)

「カメラを持って行きます」

全員に大丈夫かと懸念された。

それでも、私は何が何でも綺麗な景色、楽しかった思い出を残したい。

もちろん 1000 万円も携えて。

島に入って山頂を目指すと、広がる光景の後には地獄が待っていた。

崩れ去る足元、這い上がれぬ崖、アベルの子孫に会えた時には足が棒となる始末。

「アベルさん、宝の情報を下さい」

「手ぶらの貴様にやるものはない」

その瞬間、仲間からヤギの写真が送られてきた。私には仲間がいる。これほど心強いことは

ない。

山頂でいくつかの宝を発見し、次なる宝を求め下山した時のこと。

下から他のハンターが上がってくるが、ロープを持っていても足元が覚束ない様子。

危険そうなため、落ちている枝で杖を作らなければ登るのが大変なことや、この先更に厳しくなること、登るために手を貸すなどを実質。ルール上は他のハンターとの協力は禁止であるが、安全が第一、これが(自称)プロハンターのあるべき姿であると信じている。

射的に挑戦し、見事一発で的中

「風が吹いていたため、少しずらして撃ちました」

(その後、ダッシュ熊も挑戦、射撃対象を鐘と勘違いしていたものの見事1撃。10発中2射、2Hit。射撃系ハンター目指せます)

夜には有り余る食事を携え、美しい夜空、パチパチと点る焚火の音を聞きながら今日1日の情報を共有し、明日の優勝を誓うのであった。

「…はい、我々はここまで書きましたので、あとは熊さんがしっかりと締めてくださいね！！」

(ダッシュ熊)

「えーっと…。ごめん、スマホだと文字が小さくて読めない…。」

さあ、初日が終わり、いよいよ明日が海賊王の宝探し本番！

我々のチームはトップハンターの矜持として、1000万円を獲得することができるのか？

To Be Continued…